

論文審査の結果の要旨

平成 30 年 2 月 17 日

申請者：王 书睿

論文題目：勧誘・依頼に対する断り言語行動の日中対照研究

－社会人と学生の日常生活会話を中心に

本提出論文は、主に文化的属性だけに着目してなされてきた従来の断りの言語行動の日中対照研究に対して、社会的属性にも着目し、グローバル化がもたらす言語運用上の変化を捉えることを目的としてなされた実証研究をまとめたものである。

先行研究では、大学生を被験者として談話完成法によるデータを大量に収集し、意味公式による量的分析を行い、主にポライトネス理論の枠組みを使って、ポライトネスストラテジーの違いとして語用論上の文化差が提示されてきた。一方、本研究では、大学生に加え社会人も被験者とし、ロールプレイ法によりデータを収集した。分析は、先行研究でなされてきた意味公式による量的分析に加え、話段を援用してマクロな談話分析を行い、勧誘―断り、依頼―断りという相互交渉の型の提示を目指す質的な分析も行った。その結果、日本人、中国人という文化的属性による差異だけでなく、特に日本人において、社会的属性が断りの言語行動に及ぼす影響が大きく、日本人大学生においては日中と言う文化的差異が小さくなっていることが分かった。即ち、日本人大学生において、日本人社会人に特徴的な間接的断りから中国人に特徴的な直接的断りへとシフトしている可能性が窺われたのである。この点については、今回設定した「お金の貸し借り」場面に限定される可能性もあることから、他の場面を設定した今後の研究が期待される。

本研究で明らかになった社会的属性が言語行動に及ぼす影響を探るアプローチは、今後の語用論の領域における対照研究の展開を促すことに大きく寄与すると考えられる。また、異文化教育の新しいあり方を提示した本研究は、日本語教育の現場に対しても教育的示唆を与えるものとして高く評価される。本審査委員会は提出論文に対して一様に高い評価を与えた。

口述審査会においては、本研究の要点を的確に提示し、審査委員からの質問については自信をもって自身の考えを述べた。

提出論文も口述審査も満足すべきものであり、博士の学位に十分値するものと判断して合格とした。

主査： 人文科学研究科 岡崎 眸

副査： 人文科学研究科 綾部 裕子

副査： 人文科学研究科 林 千賀

副査： 大連外国語大学 陳 岩